

してあまさず、横断組合の確認、團體交渉権の獲得等當初の要求を固執し、飽迄奮闘すべしと呼號して止むことなかりき。會社側は工作課長を通じて松本を招き、其前約に背きて時局を收拾すること能はず。一宅の如きをして這箇の演説を爲さしめたるの不信を詰りしたため、松本は一宅其他二名の職工を帶同し來り、工作課長の面前に於て一宅と論議するところあり、一宅をして前非を悔い今後忠實に服務すべき旨の誓約書を提出せしめたり。課長は松本及一宅をして職工食堂に集りたる一同に右報告を爲さしめたるに、一宅は一度壇上に立つや忽ち態度を豹變し口を極めて會社及松本を罵倒したり松本も亦起ち辯論大に努めたるも功を奏せず、職工は悉く一宅に與して如何とも爲す能はざるものありしたため會社は一宅を食堂内に禁足し午後五時半斷然解雇を申渡したり。

十、三菱造船各部亦呼應す

内燃機の動搖が之と隣接せる造船及電機會社に波及せるは又止むなかりき。二十八日造船所内に左の落書發見さる「最低賃金の確立。生活の安全を望む。待遇改善労働者の人格を認めよ。先づ求めよ。さらば與へらる。」三菱職工は大馬鹿者である。外の會社の職工は如何であるや。夫れに三菱の職工は食はなくても食つた振りをして安全として居るとは更に大馬鹿者である。内燃機職工の遣り方に賛成す」原文のまゝ、

浮城

二十九日正午休憩中造船職工坂口某氏(二十一)は突然食卓上に突立ち約六百名の職工に對し激越なる演説を試みたるため、會社は「過激なる演説を爲し平地に波瀾を起さんとするの煽動的行爲歴々たるもの」と看做し「訓諭の上五日間の出勤停止」を命ずるところあり。かゝる間に造船工作課各工場の要求書調印は漸次進捗の歩を進めつゝありき。七月三日正午より御崎通り南榮座に於て開催せる友愛會兵庫支部主催労働問題演説會は三菱問題に少からざる氣勢を添へたり。演説會は、三菱の和田惣兵衛氏開會の辭、應取工場の前田八十二氏「吾人の叫び」川崎の胸永太助氏「ストライキの三考察」等の後川崎分工場の行政長藏氏「おれたちは人間だ」と題し「労働者を苦しめて金を作った資本家の住宅を見よ、周圍を鐵柵、釘、硝子の破片を以て圍み、巡査に門番をさせ自ら作つた監獄内で生活してゐるではないか、彼等を解放してやるのは吾々の義務だ」と叫び三菱の安井喜三氏「労働者の一進」と題して「ストライキは嫌がらせるのだ八百屋、米屋に攻められる嫌がストライキをやれやれと尻押しをするのだから嫌を檢束すべし」と嬉しがらせ、木村錠吉氏は「昨年七月、既に此の事ありと見て政府當局へ警告を發して置いたにも拘らず何一つ實行しないため今日の如き労働爭議が起つたのだ、恚うなりや爲方がない、やるより外はない」とて演題の「もうやるより外ない」を三度叫びて油をかけ、久留弘三、岡成志兩氏の演説ありて散會したり。

四日工場内に於て監視中の守警は「一寸聞きたいことがあるから」とて職工八名を拉し工場内の一